作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	河村実生
所属機関名	工学部電気電子システム学科
職位	教授
在籍年	34 年

教育の責任

学科の専門教育において、電気電子工学実験や電子物性分野の教育を担当している。具体的には、現在、講義として電気電子工学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、半導体工学、光・電気電子材料を担当している。

教育の理念

私の講義などを受講した学生には、単に公式を暗記し、問題を解けるようになること以上に、将来、技術者・研究者として社会で活躍し続けるための、二つの重要な力を身につけてほしいと強く願っています。

- 複雑な現実世界の問題を読み解く「論理的思考力」
- 生涯にわたって自ら学び成長し続ける「自律的学習能力」

この二つの力を携えて自信をもって社会の様々な課題に挑戦していく人材を育てること。

教育の方法・方針

方針:

・学習プロセスの可視化と内省の促進： 学生が自身の学習状況と理解度を客観的に把握し、自ら学びを振り返る（内省する）機会を定常的に設ける 。

・目標達成を支援する形成的フィードバックの継続的提供： 学生一人ひとりの学習状況を継続的に把握し、目標（正しい理解）と現状のギャップを埋めるための個別最適な支援を行う 。

方法：

・毎週の課題演習とオンライン提出（mylog 活用）

毎回の講義内容に対応した演習課題を課しています。これは、単に知識の定着度を確認するだけでなく、学生が「その週に何を学び、何が理解できていないのか」を自覚し、学習プロセスを客観視するための内省の機会として位置づけています 。オンラインシステム(mylog)を通じて提出させることで、学生は自身の解答と思考の履歴をデジタルデータとして蓄積でき、学習の軌跡を容易に振り返ることが可能になります。

・中間テストと全体へのフィードバックを兼ねた解説講義

学期の中間地点でテストを実施し、学習到達度を測ります。これは成績評価（総括的評価）であると同時に、学生と教員の双方が前半の学習における課題を特定し、後半の学習計画を調整するための重要な形成的評価の機会でもあります。テスト後には 1 回分の講義時間を使い、単なる解答の解説に留まらず、多くの学生が共通してつまずいた概念や、特に重要だった問題について掘り下げて説明します。これにより、学生一人ひとりが自身の弱点を再認識し、効果的

な復習へと繋げることを支援しています。
教育の成果
高い課題提出率の維持:　学期を通じて課した毎週の課題演習において、mylog を通じた提出率は平均で 70%以上を維持しました。これは、多くの学生が毎週の学習サイクルから脱落することなく、継続的に学習に取り組んでいたことを示唆しています。 中間テストにおける平均点の向上:　期末試験の平均点は中間テストのクラス平均点より高くなっている。
今後の目標
授業アンケートにおいて講義に対する一週間当たりの学習時間を平均で 1 時間以上にしたい。また、もっと「教員が答えを教える」ものから「学生が自ら間違いに気づく」ための問いを投げかけるスタイルに転換していき、学生間の共同学習を促がしたいと考えています。具体的には、講義中に演習時間を設け、ディスカッションの機会を作りたい。
根拠資料
Mylog を通して、講義資料の配布、中間テストや期末テストの解答例を閲覧できるようにしている。課題の提出率は７０％程度以上を維持しており、授業アンケートの結果では、満足とやや満足が 70～80％程度の評価を得ている。